

經濟時評及商況

◎製鐵業者は先づ地方的集中を

斷行せよ

(併せて利益共同體に就て今泉博士の訓へを乞ふ)

小島 精一

一、本邦製鐵業者の合同に對する態度

戦後本邦製鐵業の救済に就ては色々の方面から種々の提案が行はれた。然し當業者の議論は兎角蟲の好いものが多かつた爲めか輿論及學者達からは一種の輕侮を以て迎へられた感がある。夫れがためか近頃では救済策が餘程眞面目に考究される様になつた。嘗ては關稅や獎勵金を下附しさへすれば夫れで總てが解決される様に説き立てた議論が多かつたが此頃では、それよりも合同組織を實現して、先づ企業者自ら救済事を第一義とする様な口吻が強く主張される様である。之は當然な事とは言ひ乍ら此重大問題の解決を促進する上に喜ぶべき傾向である。所謂、基本工業とか軍需必要品とかの名目に隠れて、適當の保護を要請するのは甚だ謂はれなき事である。然るに仄聞する處に據れば三井經營に屬する日本製鐵所にては、既に輪西製鐵所に數百萬圓を投じてコッパース窯の新設を行ひ、之がために三井鑛山及び北海道炭礦と三社のプールを組織した由である。余は其内容を審にしないから其形式に關する説明をなす事が出來ないが、要するに其目的とす

る效果は設備の改善を機縁として低廉なる原料の供給(殊に石炭)を期するにあると信ずる。又近時釜石の田中鑛山會社も三井の經營に移る事と確定したらしい。果して其報道にして信じ得べくば之は兩社を合同する前提であらう。然らば兩者は原料の疏通によつても得る處は尠くあるまい。本邦の基本的製鐵業は原料及び歴史上の見地から、北部地方は九州一圓、及び滿鮮地方の二中心地と鼎立すべき三大地方の一である、此三地方は其基礎條件が夫々孤立的であるから。先づ別々に地方的集中をなすべきであるとは私の久しく考へ來つた處である夫れ故東洋製鐵が八幡製鐵所に委託されたのも、釜石製鐵所が三井に合併されたのも生産能率の點から言へば歡迎すべき現象であると考へる。

二、大同團結の前提として地方的企業集中

全國の製鐵業者を網羅する大結合コンビナチオンを組織する事は一舉に出來るものではない。又假りに出來たとしても、速成案には不合理な事が多いものである。結合は言ふ迄もなく能率の向上を目的とするのであるから、當然消滅すべき泡沫會社等迄取り入れてはならぬ。そんな事をしては能率は下降する許りである。夫れ故充分企業の選擇をする必要がある。それには先づ豫備的地均らしとして散在して居る小會社を充分淘汰し、存續の價値あるものは經濟的條件に應じて、地方的合同を斷行し、所謂企業の集中的傾向を促進せねばならぬ。高度の組織網を建設するために集中的運動が如何に大切であるかと言ふ事は英國鐵鋼業の歴史が明白に訓へて居る。同國のカルテルが充分な成績を收め得ぬのは多數の小企業が各地方に分散せ

業合同熱が旺盛な事は此缺陷に自覺したためである。本邦の如きは自然的資源が散在して居る事は此英國に酷似して居る夫れ故有力な大團結を組織するためには少くも地方的集中を先づ斷行せねばならぬと思ふ。

三、利益共同體は果してカルテルの代替物

たり得べきや。

企業組織の合理化の方法には普通、^{トラスト}合同と^{カルテル}聯合との二つの代表的方法が考へられて居る。然し合同は獨占的組織としての効果よりは(即ち價格支持)單純な大企業としての諸種の效果の方が(即ち生産費低減)強いのに反して聯合は専ら獨占組織として出現するものである。例へば米國のユ・エス會社の如き大合同體にても其支配し得るは全國生産量の半分以下であつて、獨占組織としては到底獨逸の鋼鐵業組合の完全なる包括力には及ばぬのである。其の代り、生産能率を改善する點ではユ・エス會社は世界獨歩と謂はれる程の長所を持つて居るのである。元來産業の繁榮を私的經濟の立場から考察すると、二つの根本的な要件がある。第一は生産費の低減であり。第二は價格の支持である。換言すれば安く造つて高く賣る事である。否、高く賣らずとも多く賣る事である、即ち廣大なる市場の維持である。而して企業合同の期する處は主として第一の要件であり、聯合の目的は第二の要件である、從て此兩方法は自ら其目的が別である。

さて、私が前段に説いた處の企業集中の要務は其直接の效果に於ては小規模なる企業合同の促進の事である。生産能率の改善を目的とする大企業化の事であつて、決して獨占的組織の事ではない。市場を維持し、競争を回避するためには斯

くて集中されたる大企業を土臺とする一大團結が必要であるが、夫れが果して眞のトラストたるべきか、カルテルたるべきかは本篇に於ける私の考察點以外の問題である。たゞ其の何れを採るにせよ先づ確乎たる土臺を据付けけるのが急務であると信ずるのである。

そこで論點が再轉して、利益共同體の考察に入る。之は今泉博士の獨逸旅行の貴重なる土産物である。博士のお説によれば獨逸にては戦後聯合組織が衰へて、夫れに代つて此新合同法が盛んにもてゝ居るさうである。そこで博士は聯合に代つて此利益共同組織を提唱される御主意と伺つて居る。それは博士が本誌に掲載された講演録(十二年十一月號)六六八—九頁)に次の一句によつて明言されて居る。

「若し我國に於て未だ此利害協約まで進み難いと云ふことならばカルテル合同なり、若しくは一層遡つて昔の獨逸の協定程度に止まるの外はないが、夫れでは今日の世界的經濟競争に對して誠に心細さを感じざるを得ないのであります。」云々

是れを表面的に考へると明かに聯合の代替物として利益共同體を勧めらるゝ事と解釋せざるを得ない。そこで私はさう考へた上で之に對する或る疑問を卒直に申述べて御高諭に與かり度ひと思ふ次第である。夫れは聯合と利益共同體とは決して相互に代替物ではなく、寧ろ後者は前者の前提要件の一つに過ぎないのではないかと思ふからである。夫れは次の諸點を綜合して見れば容易に想見出來ると思ふ。

(イ) 利益共同體は少數の會社間の契約たるを普通とする事
企業論では世界的權威である獨逸のリーフマン博士は最近

版(一九三二年)の「聯合及合同論」中に此利益共同を定義して、次の様に言ふて居る。

「二個又は三個稀には夫れ以上の獨立性を保有せる會社が相互の利潤を一定の協定率によつて配給する契約上の協定である」云々。

之れは今泉博士の引用されたシユタットハルテルの定義と大差ないので要するに利益共同體は極く少數の會社間に行はれる方法である事を明示して居る。

(ロ) 利益共同體の目的は企業合同と同じく、生産能率の向上にあつて獨占的組織たるに非らざること。

聯合組成が全地方又は全國の同業者を綜括した獨占體たるを第一義とするは前陳の通りであるが、利益共同體は僅々數個の會社を集合するに止まるが故に決して獨占體として競争を回避する役目は勤まるものではない。否、其本來の面目はその點にあるのではなくして、一種の企業合同的效果を擧げる點に存する事はシユタットハルテルの定義によつても明らかである。

(ハ) 利益共同體は異種の企業間にも多く行はれる。

相互に補充的關係の企業例へば石炭と鐵、鐵と造船、又は電氣、機械等の如き異種の會社間に利益共同契約が行はれる事は殊に戦後獨逸の流行である。然るに聯合組織は同一種類の會社が集合するのであるから兩者の目的は此點からも全く異つて居る。

要之、利益共同體は一種の企業合同の代替物であつて、決して聯合組成の代替物であるとは思はれぬ。今泉博士は聯合は既に衰退して居る組成であると言はれた。然し、企業が少

數に集中し、利益共同、企業參與、持株、委任管理、重役兼任其他の諸方法によつて、競争單位が少數の集團的勢力となればなる程、其間の競争の激度は摯烈となる傾向があるのであつて、之を調整するには是非何等かの形式で聯合を行ふ必要がある。戦後獨逸では政府が強制的に民主的聯合組成を建設した事は周知の事實であつて、聯合が衰退すると云ふ意味は理解出來ない。繰返へして言へば聯合と利益共同契約とは其目的が同一なのではなくして、前者は競争の回避、市場の維持を第一義とするに反し、後者は生産能率の向上を目的とするのであるから、併存的發展をこそ遂ぐべきものであれ、決して代替物ではないのである。最近の獨逸鐵鋼業組織の發展傾向は正に此兩者の併行的發達を示すものであつて、決して聯合組織の衰退を物語るものではない。

四、結 言

要之利益共同體は私の所謂企業集中の一方法たるに過ぎない。而して、今泉博士の御主旨も熟讀すれば結局本意は此點に存する様にも思はれる。即ち聯合組織の代替物たるに非ずして、企業合同の代替物たらしめ様とせらるゝかに思はれる。若し果してさふだとすれば問題は自ら別となつて、利益共同體は果して企業集中の良方法なりや否やと云ふ點を吟味せねばならないのであるが、私は夫れは別文に譲つて、茲では單に地方的企業集中の急務を提唱するに止めて置かふと思ふ。

(七月十四日稿)

◎鐵材在荷

バラック建築が一巡し尙本建築迄に至らない京濱間には建築材料其他一般鐵材が、震災後の輸入増加と需要の減少との爲めに滞貨激増し二十三萬噸に達し殊に

丸釘六萬噸丸棒八萬噸を始め薄板平板等四萬噸あり是等は三六もの一枚平板一圓内外のもので目下は七十六錢であるから荷主も多額の損失を見越して投資するわけにも行かず去りとて資金固定して營業上不振を來し已むを得ず其一部を投資するものさへ生ずるに至つた八幡製鐵所が本年一月より毎月平均一萬五千噸の型もの丸棒等の拂下をして居るが市場より一割方安値であるに拘はらず特殊の材料を除く外は賣行思はしくない状態であるから、更に七八月の不需求期に入らば市場は下落するであらう。

◎鐵鋼市況

鉄鐵は鍋釜その他日用品鑄造用並びに罹災せる印刷機械の復舊用としての需要は相變らず相當出て居るけれど電氣事業、鑛山事業及び織物業等の不振に依り、それが大量を要すべき鑄物機械の注文が少いので全體の需要としては前年同期に比し著るしく減少せるが如くそれに金融の關係もあつて市況は益々不況に陥つてゐる、しかし相場としては海外輸入品や内地工場における生産費等の關係より弱いながらも持合の商狀を示し、即ち輪四一號六十四圓、兼二浦一號六十三圓、本溪湖一號鞍山一號漢陽一號ベンガル物六十二圓見當を唱へて居る、尤も釜石製は一時在荷が多かつたため一圓方の値を下げて極力滞貨一掃に努めた結果余程緩和して來たから一號六十四圓、二號六十二圓、三號六十圓と各品を通じて一圓方引上げ復活せしめた。

鋼材 鋼材類は屢々報道するが如く新規に輸入するとせば現在内地市場相場より高直に附く關係から最近殆ど輸入商談は行はれて居ない、一方不振とは云ひながら兎に角消化されて居るのであるから在荷は多少なりとも物に依つては減少の傾向をたどり現に鐵板及び棒鐵類の内品薄となるものは幾分上向氣味を示し即ち鐵板三六物一分厚五圓三十錢、同五厘厚六圓四十錢、同八厘厚五圓四十錢と十錢高丸棒二分半も同様の理由で四圓八十錢と十五錢高を唱ふるに至つた、しかし内地にて製造し得るものは相場が上ると直に製造を増加するから當分上る見込みなきものと觀られて居る、また丸釘は商人の手持としては左程多くないけれども復興局の買入れた五萬樽は未だ一樽も賣れないので當局者はほと／＼持てあまし相當の直段なら思ひ切つて拂ひ下げる意向らしいと傳へられたために市場もこれに脅威されて市況益々軟弱に陥り一寸六分乃至三寸二分物は十圓と三十錢安三寸六分は二十錢安の九圓三十錢見當を唱ふるに至つた。

◎英國鐵板輸入

内地の鐵商人は大戦前にはブリキ板薄板建築材料等は主として英國市場に需要の一部は米國市場に仰いだのであるが戦争の爲め英國では製鐵熱練職工を失つたのと經濟上の打撃に因つて製鐵市場の不振の爲め漸次米國に需要を増加し遂に輸入の大半を仰ぐに至つて主客を顛倒した、即ち一例を擧ぐれば薄板は米國より大正十年に七萬一千噸、英國より一萬七千噸、十一年には前者は二十三萬六千噸、後者は五萬九千噸である、而して十二年には英國品は次第に増加の趨勢であり此傾向は今後更に持續さるべき模様で、つた、然るに昨今の排日問題よりして排米問題の惹起となり排米貨となつたので彼等の貿易上面白からざる現象を生ずるに至つた其結果七月以後の鐵材に對する大口の注文並に復興の建、鐵材等は之を米國市場に需めるを中止して英國市場に仰ぐの可なるを説く内地商人の擡頭して來たのは注目し値することである。

◎英國鐵鋼市況

(六月二日在倫敦松山商務官來電)

石炭は内地需要幾分増加せしも輸出向需要引續き沈靜に市價下押アンドミラルテイー一等炭二十三志。

鉄鐵は内地需要相當活氣あるも海外の引合不味最近原料コークスの値下りに市價低落クリーブランド三號八十九志鋼鐵區々造船用材不振なるも建築用材相當活氣あり。

鋼板類一般に強調鉄力は市價低落に買氣増歐大陸方面への輸出相當最早相場もドン底と看做され思惑筋の先物注文多く先高氣配、黒板は東洋方面の引合相當に市況堅實相場持合、亞鉛板厚物海外の需要旺盛に高張るも薄物引合閑散に不味、工場は先物相當賣越し相場不變。

◎印度鉄鐵市況

印度鉄鐵は僅かに毎月五十噸平均の内地輸入に過ぎないが市場は過般パーン會社の處分残り約三千噸の浮動品があり内地製品臺灣不良と相俟つて相場は五十五圓に釘付姿である。

